

第101回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2017年12月11日(月) 14時～17時

兼題「ポインセチア、猩猩木」

- 川合素山 ○雪吊や遠見の茶屋の緋毛氈
ポインセチアピエロが躍る酒場かな
一瀑を隠し全山冬紅葉
風花の襟に溶けゆく銀座かな
- 保井寶正 ○ほのぬくし黒塀裏の寒椿
花舗のぞきポインセチアは何処と問ふ
枯菊や骨骸となり香を残す
賑わいは欲深様の三の酉
- 佐久間喬 ○団子屋も電飾光る年の暮
七つ星影絵となりぬ冬木立
予約席綺羅をつくしてポインセチア
花の店誘っているよポインセチア
- 丸山酔宵子 ○臼杵ではタレで肝溶き喰ふてつさ
紺碧の空を突き刺す銀杏かな
車窓打つみぞれ混じりの北帰行
ミサの鐘ポインセチアの似合ふ頃
- 菊地崇之 ○駅伝や汗と涙の冬景色
もみの木やチョコ星サンタ飾り見む
メサイアとポインセチアや時を撞く
大寒やゴルフ行けむに発句せむ
- 吉田啓悟 ○ポインセチアなぐさめになる赤でなく
知られざる裏参道の冬茜
遠き灯のさらに奥の灯鮒起し
連山の雪かがよ耀うて耳済ます
- 青木英林 ○ピアノバーポインセチアが闇に浮く
雑炊に五臓六腑がこおど小躍りす
わたつみ海神の怒り鎮めよ冬のなみ濤
朝刊を取りて炬燵で二度寝かな

- 後藤克彦 ○酉の市残る熊手の豪華版
世知辛し手締めも湿る三の酉
着ぶくれや席の攻合い押し勝てり
ポインセチア二鉢競ふ赤と白
- 山本草風 ○年の瀬や故郷に帰る国言葉
ラガーマン無数の傷にたじろかず
この恋をポインセチアの緋に託す
色褪せた祖父の冬服墓参り
- 佐伯兵庫 ○こりもせず自分捜しの日記買ふ
ルミナリエ無口な娘似合けり
年惜しむ落ちる体をおもてなし
別れた夜ポインセチアに語りかく
- 佐久間たか子 ○落ちきりし夕陽に空^すかすやせ紅葉
セイコガニ解禁待つ間旨さ増す
猩猩木一枚残るカレンダー
幸祈る窓辺に萌ゆポインセチア
- 金森純女 ○大仏を仰ぎ見る子や冬うらら
落葉掃く老翁いつしか見なくなる
色褪せしポインセチア捨てかねつ
見る者もなき絶海に勇魚飛ぶ
- 渡辺鯨波 ○お隣的美魔女の会釈ポインセチア
老いらくの恋呼び覚ますポインセチア
クリスマス介護ロボットに抱かれる
寂聴のご高説聞くクリスマス
- 澁谷瑠璃 ○耳当てす冷ややかな越え聞くものか
ポインセチア神誤りて塗りし緋^{あか}

^{かまいたち}
鎌鼬反撃なさぬ君偉し
年惜しみ日記に埋める絵空事
- 石川智子 ○地上にも無数の星よ寒昂
冬の星過去と未来のどこにゐる
神様の屑をすくひて寒北斗
友を待つポインセチアと七面鳥

原 晶如 ○背骨から小指へと抜け風邪心地
ポインセチアに吾が熱量を確かむる
暮六つの鐘に急がされ冬の月
溪谷に鷹睥睨す露天風呂

青葉ひかる ○優しくて熱き瞳の消えぬ冬
氷張る奈落の底に現れし君
ポインセチア燃える炎の紅哀し
オリオンの夜空に宝石ちりばめし

次回「萩句会」

日時 2018年1月8日(月) 14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『初景色』一句 当期雑詠三句 計四句